

市民の笑顔のために、人権意識を持った行政サービス

3月は年度末として業務処理や部署移動もあり忙しい季節です。そして一年を総括して次のステップに進むには、一区切りとなるよいタイミングといえます。振り返り考える、反省すべきところは受け止める、良かったところも驕ることなく見直す。しっかりと前に進んでいくには、その積み重ねが必要です。これは人権感覚についても同じことがいえます。振り返り考えることで、人権感覚は磨かれていきます。仕事も人権感覚も「ここまで出来たからいいや」はありません。常に自分自身を見つめ戒め向上心を持って考え行動することが大切です。



行政窓口の対応について、以前は「わからないから聞いているのに冷たくされた、怒られた」という声をよく聞きました。しかし、最近では「優しく対応してくれた、丁寧に説明してくれた、部署が違って担当窓口まで連れて行って引き継ぎしてくれた」など、以前とは違った嬉しい声を聞くことが多くなりました。行政の方々が、振り返り考えることをしっかりと継続して積み重ねてきた結果、市民に喜ばれるサービスにつながっていると思います。

サービスがよくなれば、市民は喜び行政との距離が近くなり関心を持つようになります。行政と市民が触れ合う機会が多くなれば、今まで市民に届いていない役立つサービスを知って利用するきっかけにもなります。その人に合う行政サービスを紹介して提供することも行政としては必要です。そして、対象者となる市民のことを考える上で、人権意識は欠かせません。相手を思いやる気持ちがなければ、良いサービスを提供できないからです。

私どもは「市民目線で対応してほしい、わからない人には優しく教えてあげてほしい、困っている人の立場になって考えてほしい」と提唱し続けてきました。人は慣れてきたときに気が緩んでしまいがちです。素晴らしくなってきた行政サービスも「ここまで出来たから大丈夫」ではいけません。市民の笑顔のために、振り返り考え人権意識を持った行政サービスが、部署移動があっても引き継がれることを望みます。

2018年度活動報告 (2018年4月～2019年3月)

人権移動教室

甲府市、甲斐市の小中学校にて人権移動教室を開催。子どもたちに、命の大切さや思いやりを伝え、人権について知ってもらう授業を、10校で開催しました。



人権啓発パネル展

甲府市、甲斐市、昭和町にて、児童たちの感想文、著名人の人権メッセージなどを展示し、命の大切さを考える人権啓発パネル展を13回開催しました。



人権啓発講演会・映画鑑賞会

甲府市内にて6回の人権啓発講演会を実施。また、甲府市、甲斐市にて人権啓発映画鑑賞会を2回開催しました。



相談業務

いじめ、貧困、差別、パワハラ、セクハラなど、理不尽なあらゆる人権問題の相談を年間通して受けてきました。相談者の立場に立って、今の生活がよりよく笑顔で前に向けるよう、解決に向けてサポートしてきました。

行政との協働

山梨県、甲府市、甲斐市を中心に、多くの行政機関と懇話会・勉強会を定期的に開催、意見交換を継続して実施してきました。誰もが笑顔で安心して暮らせる社会の実現を目指し、行政と協働・連携して人権問題に取り組みました。

※人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。

協賛：山梨県、甲府市、甲斐市



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ 代表：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室

TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチだより (2019年3月号)

甲斐市立敷島小学校 (女子)

人権教室の先生のお話を聞いて、地球上の人は全員顔もそれぞれであるということが分かりました。私達は学校で集団生活をしているけど、顔も性格も人それぞれで、おたがいの気持ちも分からないことの方が多いいので、これからは相手の気持ちなどを考えて行動したいです。国境なき医師団を見て人の命の大切さや幸せというものが、どんなに人にとって重要なものかが分かりました。地球上には今も悲しい思いをしている人がいるということを見ると今の私達は、めぐまれているなと感じます。やりたくないことでも、人の事を考え人のために行動する国境なき医師団は、真のやさしさの心の持ち主だと感じました。私も1回友達と遊んだ時に、帰りに足をケがしてしまって、自転車をひきながら、横断歩道を通っていたことがありました。そのとき横断歩道をわたりきれいなまま、道をすきったところで赤信号になってしまったことがあったのですが、「速くわたらなきゃ」とあせっていたときに、車の中の人から「ゆっくりでいいよ、おねえ」と声をかけてくれて、とてもうれしかったです。横断歩道をわたりきった後におじぎをしたら、「フッ、フッ」となるなかから、笑っていてくれたのでもう1回おじぎをして家へ帰りました。あのとき、運転手さんがとってもやさしい方だったので、私もああいう人になりたいと思いました。これからほかの人の事、目の前で言っている相手のことを気持ちよく、相手に失礼なことではないかをじっくり考えながら、生活していきたいです。

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲斐市立敷島小学校 (女子)

命と幸せ、人権を守る、ということがどれだけ大切かが分かりました。現在約76億人が地球で暮らしていて、それぞれひとりずつ顔や考えがちがうということに共感しました。MSF 国境なき医師団は、47か国の人たちが、アフリカ大陸にいる難民を助けていると知って、自分もだれかの人のためにできることをしたいなと思いました。戦争、軍争、民族どうしの争いなどをすることで、大切な命が無くなってしまおうと思うと悲しかったです。その中でも日本は、めぐまれていると分かりました。そして、私達はだれかの支えで生きていると分かりました。あたり前の中に人の支えがあると知って、ありがたく感じました。先生が体験した話を聞いて、改めて人権を知ることができました。だれでも人のために働いたり、やさしくしているんだと分かりました。1回目とは違って、2回目3回目と体が重くなっていくと聞いて、おもしろいなと思いました。これからはまわりの人の人権、命、幸せをおもて生活していきたいです。